

吐物処理の手順

R元.11 大分県中部保健所

1

吐物処理の手順(例)

- この資料は、ノロウイルス(感染性胃腸炎)感染者の吐物の処理方法を具体的にイメージしていただくために作成しています。
- 実践では、嘔吐時の状況、作業者人数、施設環境により、臨機応変な工夫が必要です。
- 消毒薬の種類、濃度及び防護用品の着脱は、一般的な例として掲載しています。

2

吐物処理のポイント

- ① 作業者自身が感染しないこと
- ② 汚染を広げないこと
- ③ 消毒は、**確実に**行うこと

消毒する場所の表面全面に消毒液がまんべんなく行き渡り、有効な濃度で一定時間保たれることが必要です！

吐物処理のポイント ①

「作業者自身が感染しないこと」

- 感染者の吐物 1 g 中には、数百万～数億のノロウイルスが含まれ、吐物とその周辺の空气中に飛沫が浮遊しています。
- 使い捨てマスク、手袋、エプロンを正しく使い、感染を防ぎましょう。

吐物処理のポイント ②

「汚染を広げないこと」

- 目に見えない吐物が飛び散った床・壁や、それらに触れた手・靴底にはノロウイルスが付着している可能性があります。
- 作業場所を汚染区域と清潔区域に分け、意識して作業しましょう。

吐物処理のポイント ③

「消毒は、**確実**に行うこと」

- 吐物の中心から半径約 2 m の範囲内をもなく消毒してください。
- 消毒する場所の材質に適した消毒薬の種類と濃度をきちんと確認し、十分な量の消毒液が全面に行き渡るように拭き上げます。

吐物処理の注意点

●吐物は先に取り除いてから消毒します！

- ・吐物の有機物と次亜塩素酸ナトリウムが反応すると消毒液は効きません。
- ・消毒液は、吐物を十分に取除いた後、使用しましょう。
- ・吐物を取り除いた場所を、0.2%次亜塩素酸ナトリウム液で10分間浸してください。

7

吐物処理の準備品例(セットとして常設)

- ◆使い捨て手袋 (1人2組) * 数量は目安です。以下、同じ
 - ◆使い捨てマスク (1人1枚) * 2層構造以下は不適
 - ◆使い捨てエプロン (1人1枚) * 長袖エプロン
 - ◆ペーパータオル(白色)等 * もめん・合成繊維布が最適
 - ◆ビニール袋 (大2・小2枚)
 - ◆消毒薬 * 基本的に次亜塩素酸ナトリウムを使用します。
(0.2%液は、2Lペットボトルに5%原液80ml+水道水を入れて2Lにします。)
* 消毒薬は、消毒場所の材質に応じて選んでください。
 - ◆バケツ (廃棄物持ち運び用) ◆ペットボトル、バケツ等 (消毒薬を入れる容器)
 - ◆手指アルコール消毒液
- * 作業は、2人以上で行い、全員マスク等の防護をしてください！

8

吐物処理(消毒)の手順例



消毒する範囲は、目に見えない吐物の飛散を考え半径約2m以内の汚染区域内を目安にします。

9

手順① 職員の応援を求め、近くにいる人を移動させる



★重要★…ノロウイルスは、感染力が非常に強く、嘔吐した場所の近くにいる人が浮遊ウイルスを吸込むと容易に感染します。

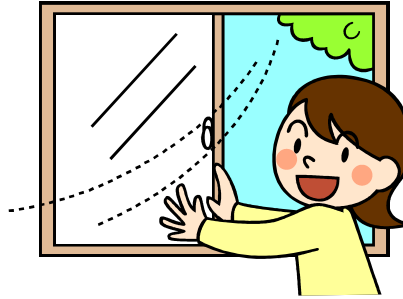
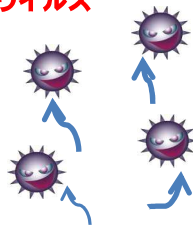
嘔吐した人を介助する職員とは別の職員が近くにいる人を別室などに移動させましょう！



10

手順② 部屋を換気する

浮遊ノロウイルス



★重要★・・・感染源がある部屋での吐物処理(消毒)作業は、浮遊ノロウイルスや消毒液等のガスを吸込むので、換気を十分してください。

嘔吐場所に浮遊しているノロウイルス等を屋外に出すようにします。



11

手順③ 準備した物品を確認してから作業する



★重要★・・・吐物用の消毒液は、一般的に0.2%次亜塩素酸ナトリウム液を使用する。

希釈した次亜塩素酸ナトリウム液は日光で急速に効力が低下します！・・・濃度、有効期限(希釈後7日以内)、保管場所に注意ください。

12

手順④ ゴミ袋を準備します

バケツは清潔区域に置き、汚染区域には持ち込まない。



★重要★…バケツにビニール袋を2重にし、内側袋に吐物などを入れます。外側の袋は液漏れの際の防護用です。

2枚の袋の縁は、汚染がないように、それぞれ反転して内側に巻き込んでおきます。

13

手順⑤ 規定濃度の消毒液が入ったペットボトルをビニール袋に入れる



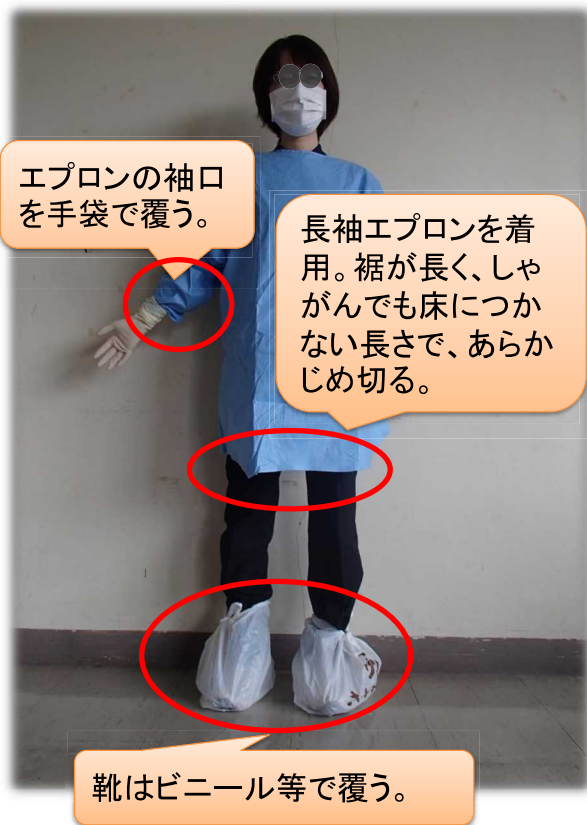
●キャップは、清潔区域に置きます。

●誤飲防止等のため消毒薬名、濃度を表示します。

★重要★…ノロウイルスで汚染された手で、ペットボトルに触れる可能性があるため、直接ペットボトルに触れず、後で袋だけ廃棄します。

14

手順⑥ マスク、手袋、エプロン等を着用する



★重要★・・・マスクは、ノロウイルスを吸い込まないように次の手順で正しく装着しましょう。

- ①上部の内蔵ワイヤーを上にして鼻にあて、鼻の形に合わせてワイヤーを曲げて密着させる。
- ②あごの下まで、下端を伸ばし、頬と顎が密着するように整える。
- ③マスクの外側は絶対に触れない。

15

手順⑦ 吐物をペーパータオルなどで覆う



★重要★・・・吐物からノロウイルスが、浮遊、飛散しないよう、応急措置としてペーパータオルなど覆います。

16

手順⑧ ペーパータオルの上から消毒液をかける



★考え方★・・・この際の消毒液は、消毒効果が目的ではなく、吐物とペーパーを密着させノロウイルスの浮遊を防ぎ、乾燥した吐物を軟化させるためです。

17

手順⑨ 吐物の固形物を片付ける



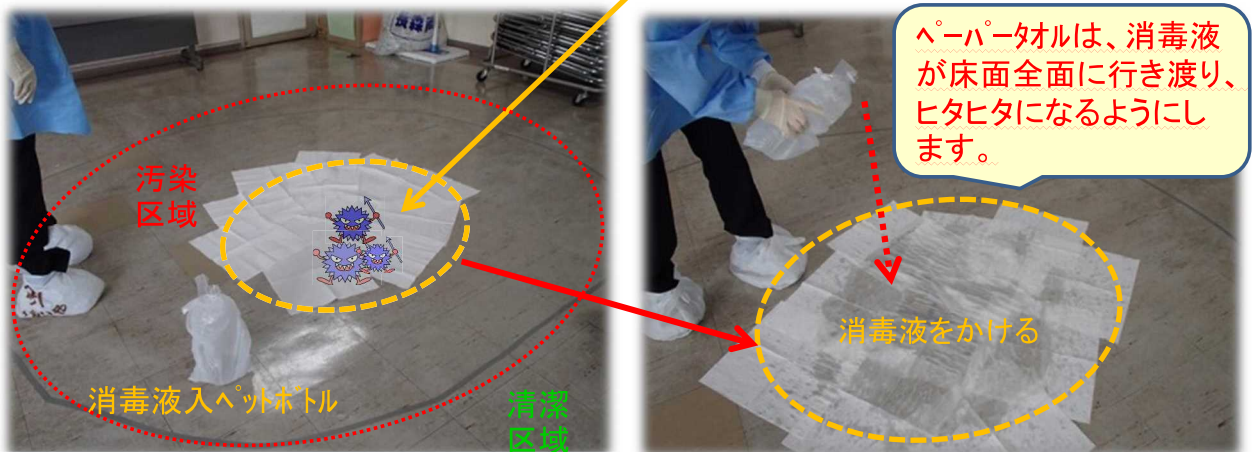
この段階では、まだ消毒はできていない！

★重要★・・・吐物を包込むようにペーパータオルを外側から中心部に寄せ集め、ビニール袋(小)に入れ、密封してバケツに入れる。吐物に汚染された範囲を広げないように注意する！

18

手順⑩ 吐物周辺を先に消毒する(約10分保持)

⑧、⑨で吐物固形物を除去した場所



★重要★・・・0.2%次亜塩素酸ナトリウム液をかけて

約10分間浸すと適切に消毒できます。



手順⑪ 吐物から半径約2mの範囲内を消毒する

バケツは事前に清潔区域に置いておく。



汚染区域

清潔区域

汚染区域内を消毒液が十分しみ込んだペーパータオル等で拭きあげることができれば、別の方法でもよいです。

★重要★・・・目で見えない吐物の飛散を意識して、汚染区域と清潔区域の境界線上(吐物から約2mの部分)に消毒液をヒタヒタにしみ込ませたペーパータオルを敷き詰める。清潔区域に補助者がいると作業効率が上がります。

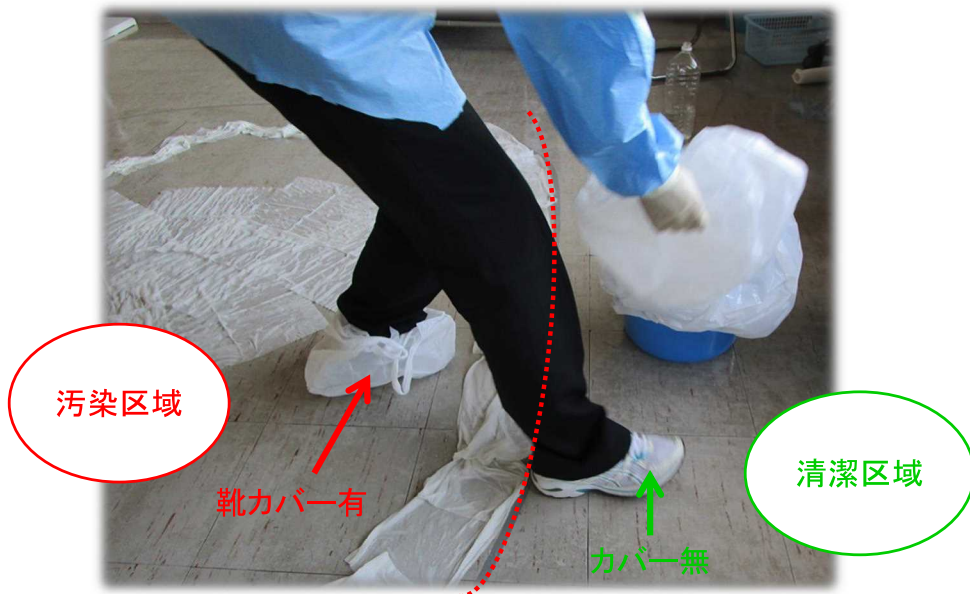
手順⑫ 補助者がビニール袋の中からペットボトルを取り出し清潔区域に置く



- ★解説★・・・作業者と補助者が分担し、汚染を広げないようにします。
- ①②・・・ペットボトルは、作業者の手が不潔なため、補助者がレジ袋の中から取出し、清潔区域に置きます。
 - ③・・・ペットボトルを包んだレジ袋は、作業者が清潔区域に置かれたバケツ内のゴミ袋に入れます。

21

手順⑬ 靴のカバーをはずして清潔区域に出る



22

手順⑭ 手袋をはずし、新しい手袋を着用する

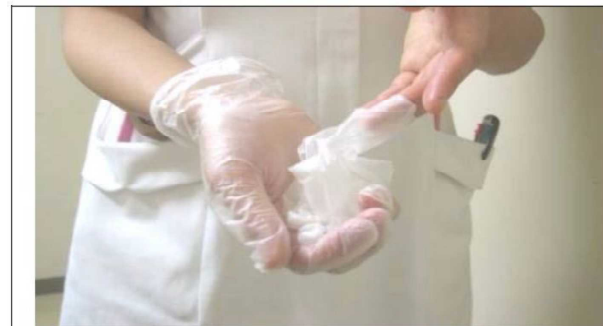
手袋のはずし方



①手首に近い縁の外側をつかむ



②手袋の内側が表になるように外す



③手袋着用の手で外した手袋を握る



④手袋の手首の内側に指を入れる

23



手袋のはずし方(つづき)



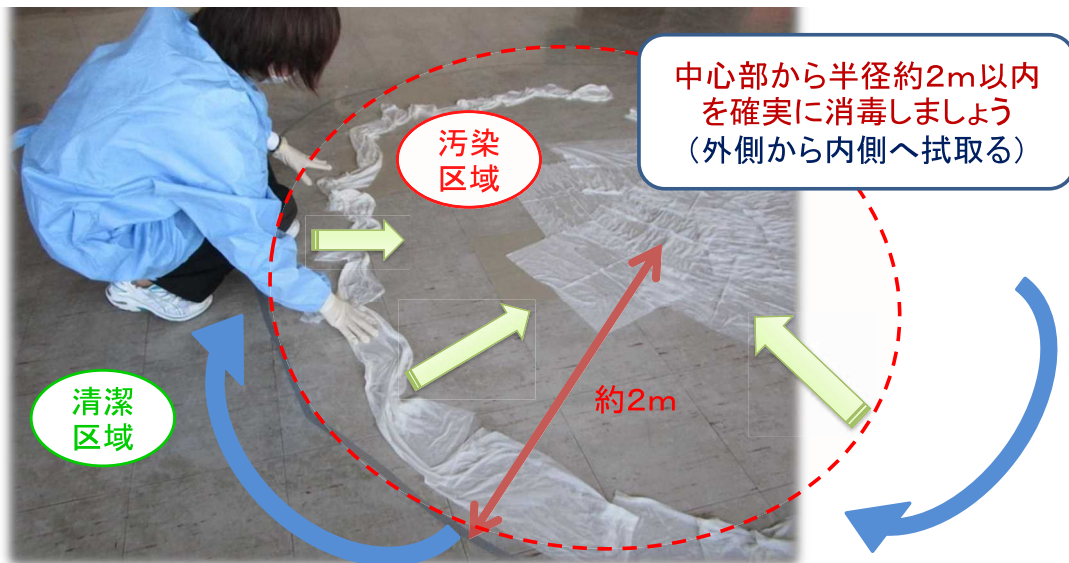
⑤握っている手袋に覆いかぶせるように内側が表になるように外す



⑥廃棄し、手指をアルコールで消毒後、新しい手袋を着用する。

★重要★・・・こうすることで、汚染された部分が手袋の中に包み込まれるので、廃棄された後も周囲を汚染するリスクを最小限にすることができます。

手順⑮ 中心部以外の床の消毒を行う



★重要★・・・拭取りは、同一方向に進み、後戻らないようにします。手やひざ、エプロン、ズボンの裾を床面につけないようにして、自身が汚染しないようにしてください。

手順⑯ 消毒のつづき

吐物周辺部は、消毒液をかけてから、約10分間保持します。
(手順⑩参照)



手順⑰ 作業後、手袋→エプロン→マスクを外す



★重要★・・・使った手袋等は全て、表面が汚染されているので、触れないようにしてください！

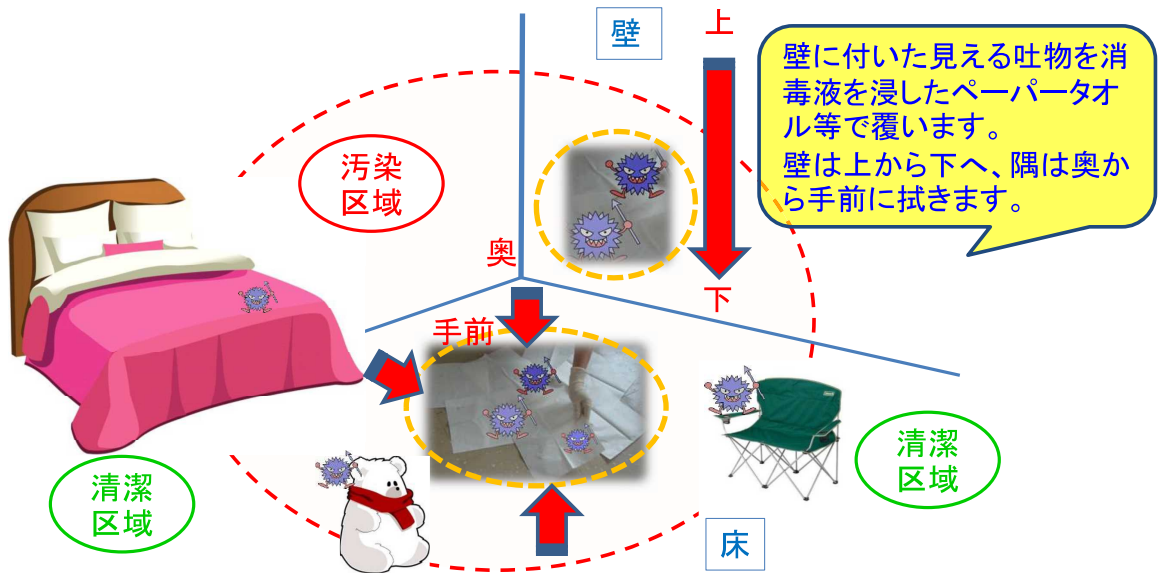
4. 外した物は、吐物を入れて結んだ内側の袋と外側のビニール袋の間に入れ、しっかり封をする

手順⑱ 最後に衛生的な手洗・うがいをします！



★重要★・・・作業後の体調管理には十分気をつけてください。

(応用例) 狭い室内の壁等がある場合の消毒



★重要★・・・基本は手順⑧から⑯と同じです。目に見える吐物を除去後に消毒を行います。寝具、おもちゃ等はビニール袋で密封し、室内の消毒が終わってから別室で消毒します。

様々なものの消毒方法

・ リネン類等洗えるもの

- ①汚物がついたリネン類は専用のビニール袋等に入れ、周囲を汚染しないよう十分注意する。
- ②洗剤を入れた水の中で静かにもみ洗いする等、汚物を十分に落とした後、85℃で1分以上になるように熱湯消毒する。または、0.02%(200ppm)次亜塩素酸ナトリウム液に30～60分浸す。(塩素消毒は色落ちしたり布が傷むことがあるので注意すること。)
- ③消毒後、他のものと分けて最後に洗濯する。
※下洗い等に使用した器具等は洗浄消毒をすること。

様々なものの消毒方法

• 洗えない物

汚物をよく拭き取った後、0.02%(200ppm)次亜塩素酸ナトリウム液で拭き、日光消毒する。(塩素分は揮発する。)

※次亜塩素酸ナトリウムが使用できない場合は、85℃以上の熱湯に1分以上浸し、乾燥させる。

31

消毒液の作成方法(原液濃度5%使用)

対象物・濃度 作りたい量	嘔吐物・下痢便等	ドアノブ・手すり等
	0.2%(2000ppm)	0.02%(200ppm)
500ml (0.5リットル)	20ml+水480ml	2ml+水498ml
1000ml (1リットル)	40ml+水960ml	4ml+水996ml
2000ml	80ml+水1920ml	8ml+水1992ml
3000ml	120ml+水2880ml	12ml+水2988ml
4000ml	160ml+水3840ml	16ml+水3984ml
5000ml (5リットル)	200ml+4800ml	20ml+水4980ml

次亜塩素酸ナトリウムの希釈方法(計算式)

$$\frac{\text{作りたい量 (ml)} \times \text{作りたい次亜塩素酸ナトリウム液の濃度 (\%/100)}}{\text{原液の次亜塩素酸ナトリウム液の濃度 (\%/100)}} = \text{水に加える原液の量 (ml)}$$

32

0. 2%の濃度で . . .

**5%次亜塩素酸ナトリウム液
80mL**



約16杯分

**ペットボトル
のふた (5mL)**



2Lペットボトル

33

**ご紹介した手順はあくまで1つの例です。
基本的な考え方を理解したうえで、状況や施設に応じて工夫してください。**

**不明な点がございましたら、次のところへ
お問合せください。**

大分県中部保健所 電話0972-62-9171